

ハザードマップの冊子化と説明動画作成

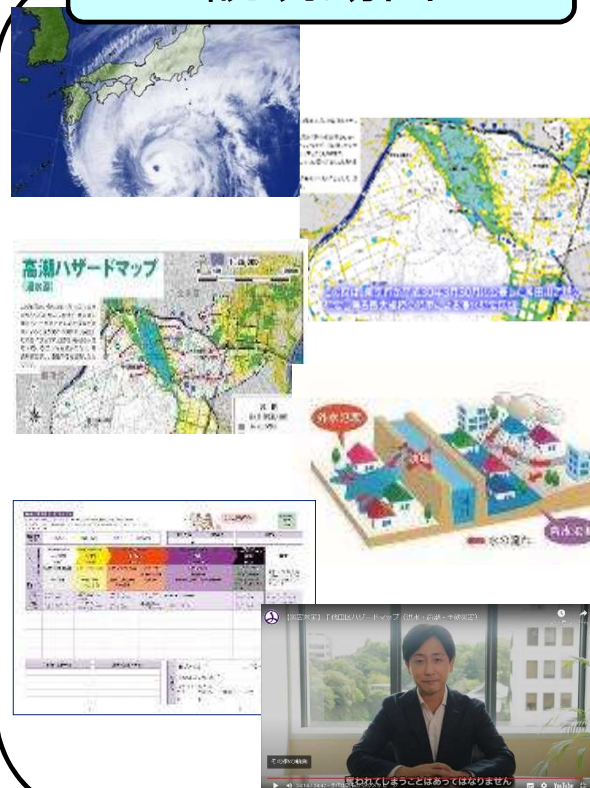
千代田区

- 洪水・高潮・土砂災害のハザードマップを冊子化し、区内全世帯及び関係各所へ配付。
- 逃げ遅れを防ぐために、マイタイムラインを書き込むことができるページを用意。
- 合わせて、ハザードマップの見方やマイタイムラインの作成方法について解説した説明動画を作成し、区ホームページに掲載。
- 広報紙でも夏休み企画として水害特集号を組み、若年層へ強く訴求。

ハザードマップ冊子版



説明動画



広報誌による啓発



要配慮者利用施設における避難確保計画作成等の促進

- 地域防災計画に位置付けられた要配慮者利用施設管理者に対して計画作成等について通知
- 避難確保計画作成のため、中央区独自の様式・手引きを作成
- 個別の問合せに対応し、計画の作成方法等について助言

避難確保計画作成の手引き(抜粋)

点検リストの項目を充足する最低限の内容を様式・手引きともにA3×1枚にレイアウトした。

避難確保計画作成の手引き

1から16までの段階をヒント👉👉👉を参考にして記入していきましょう！

1 中央区のIPの対象施設一覧表または区からの通知文書右側に記載された施設の対象災害ごとに計画を作成し、対象災害ごとに計画を2つ以上に分けて作成してもかまいません。

2 計画を作成した日付を記入

3 施設の名前、所在地、管理施設者氏名、担当者氏名、担当者連絡先を記入

4 施設の階数を記入

5 通知に同封の【浸水想定区域図】で浸水深と浸水継続時間を確認して記入

6 1つ以上の災害(荒川洪水+高潮など)を想定した計画を1つにまとめる場合は、より浸水深の深い方・浸水継続時間の長い方を想定してください

7 通知に同封の【ハザードマップ】地図右下の【浸水深のもの】図表を見て災害のイメージを関係者で共有しましょう

8 利用者、職員の人数を記入
職員以外の協力者の有無に必要に応じて夜間の体制を記入

9 情報伝達要員と避難誘導要員の班長と各人数を記入

10 避難要員の不足や災害により対応要員が出勤できない事態に備え、周辺に在住の方などから災害時に応援を要請できる協力者を探してみてください

11 自施設の対象災害と無関係な項目を削除(例)対象災害が荒川洪水のみの施設

12 臨時休業を判断する基準、対応、保護者等・職員への連絡時刻、連絡手段を記入

13 職員の一部早い出勤時刻や、利用者の一部早い退所時間などから逆算して決めてみましょう

14 「誰がいつまでにどのように」避難を行うか事前にはっきりと決めておく、非常時にも迅速に行動できます
利用者緊急連絡先一覧表や職員緊急連絡網を作成または既存のものを活用し、計画と一緒に保存しておきましょう

15 本避難確保計画は、水防法第15条の3第1項に基づいて作成し、図に添付するものであり、以下の3点を図表と対する。
(1) 施設利用者の非常時の内陸かつ迅速な避難の確保を図ること
(2) 職員や保護利用者向けに防災教育や訓練を行い、対象災害への知識を深めること
(3) 訓練等を通じて計画の理解を促し、必要に応じて計画を見直すこと

16 本避難確保計画は、水防法第15条の3第1項に基づいて作成し、図に添付するものであり、以下の3点を図表と対する。
(1) 施設利用者の非常時の内陸かつ迅速な避難の確保を図ること
(2) 職員や保護利用者向けに防災教育や訓練を行い、対象災害への知識を深めること
(3) 訓練等を通じて計画の理解を促し、必要に応じて計画を見直すこと

本避難確保計画は、水防法第15条の3第1項に基づいて作成し、図に添付するものであり、以下の3点を図表と対する。
(1) 施設利用者の非常時の内陸かつ迅速な避難の確保を図ること
(2) 職員や保護利用者向けに防災教育や訓練を行い、対象災害への知識を深めること
(3) 訓練等を通じて計画の理解を促し、必要に応じて計画を見直すこと

施設の名前 5.5号高松ビルディング 施設の所在地 中央区高松一丁目1番1号
施設管理者 管理施設者(代表者) 氏名: 佐藤 太郎 担当: 田中 花子
担当連絡先 電話番号: 03-XXXX-XXXX Eメール: info@example.com

1 施設の浸水想定 施設のあるフロア 1F
浸水深 0.5 m (1階まで) 浸水継続時間 72時間(3日)

2 防災体制
職員(平日) 20人(休日) 10人 施設職員(平日) 5人(休日) 3人 地域の協力者(例) 消防団 1班(10人) 近隣住民の協力者(例) 近隣住民 10人
避難誘導要員 職員(中堅) 2名(1名) 近隣住民の協力者(例) 近隣住民 1名(1名)

3 臨時休業を判断する
(1) 以下のいずれかに当てはまる場合、休業する
(2) 災害の被害が予想され、公共交通機関の計画の運行が予定されている
(3) 臨時休業を判断するに当たっては、関係機関と連携し、必要に応じて、関係機関と連携する

4 臨時休業を判断する基準、対応、保護者等・職員への連絡時刻、連絡手段を記入

5 職員の一部早い出勤時刻や、利用者の一部早い退所時間などから逆算して決めてみましょう

6 「誰がいつまでにどのように」避難を行うか事前にはっきりと決めておく、非常時にも迅速に行動できます
利用者緊急連絡先一覧表や職員緊急連絡網を作成または既存のものを活用し、計画と一緒に保存しておきましょう

5 情報収集手段

収集する情報	収集方法
避難要員・活動者(避難要員、避難誘導員(班長))	⑫ 安全・安心メール(防災行政無線)
緊急伝達(注意報・警報)、荒川川の避難情報	⑬ 安全メール(防災行政無線) (防災メール)
荒川の水位情報	⑭ インターネット(安全・安心メール(防災行政無線))
施設周辺の道路や水路の浸水状況	⑮ 職員による目視、自治体の要請などから事前に把握

6 避難先経路図

この経路は作成例です。

【高松町】
避難先への移動時間: 3時間(徒歩)
徒歩距離: 3km(徒歩)

【高松町】
避難先への移動時間: 3時間(徒歩)
徒歩距離: 3km(徒歩)

7 備蓄品・資機材

品目	備蓄品
情報伝達	⑯ 防災行政無線、スマートフォンの安全・安心メール(防災行政無線)、防災メール、防災メール(防災行政無線)
避難誘導	⑰ 防災行政無線、防災メール、防災メール(防災行政無線)、防災メール(防災行政無線)
避難経路	⑱ 防災行政無線、防災メール、防災メール(防災行政無線)、防災メール(防災行政無線)

16 情報伝達要員が情報を収集する手段を情報ごとに記入
電話切れ、電波不良、停電等に備えて、なるべく複数の手段で情報を発信する
収集方法のうち、施設で準備できないものは別添

17 通知に同封の【安全・安心メール(防災行政無線)】にたい、必ず情報の伝達を受けてください
安全・安心メールで発信する情報が対象災害に合った適切なものになっているか、避難確保計画で確認してみましょう
個別のWebサイトをお気に入り登録しておきましょう

18 自施設から避難先までの経路を記入
施設内での移動、夜間の時間を踏まえて避難先への移動時間と移動手段を記入
通知に同封の【ハザードマップ】と重ね合わせて、浸水する可能性が高い箇所や危険箇所を避け、災害による通行止めの可能性も踏まえてできるだけ複数の経路を設定する

19 経路図を施設内の各職員が共有される場所に掲示してみましょう
避難に要する時間を想定する際に、浸水、車事故、停電の影響なども考えてみましょう
移動手段を設定する際に、浸水により道路の高水が想定できなくなった場合なども想定してみましょう

区有施設の浸水対策について

港区

取組の実施内容

区有施設の洪水や高潮による浸水被害を最小限にとどめ、区民サービスに影響を生じないように、浸水による影響が大きいと考えられる区有施設について十分な対策を講じているか確認し、それに応じた対策を施すため調査を実施し、浸水深に応じて止水板等の設置や資機材による対策を進めています。

取組状況

港区区有施設の高潮等浸水対策に係る
調査支援業務委託 概要版

目次

1. 業務の概要 1
2. 区有施設における浸水防止の概要 1
- 2.1 浸水防止の概要 1
- 2.2 浸水防止の目的 2
- 2.3 浸水防止の対策の概要 3
- 2.4 浸水防止の対策の概要 3
- 2.5 浸水防止の対策の概要 3
- 2.6 浸水防止の対策の概要 3
- 2.7 浸水防止の対策の概要 3

浸水対策の考え方

浸水対策	概要
止水板	<ul style="list-style-type: none"> 区内への浸水を防止は、施設の室内の浸水を防ぐことに有効 止水板は、止水板（浸水防止）シート（防水シート）よりも高めることが可能 最大1-30cmの浸水まで対応 設置作業が容易（1人作業で2時間程度） ※浸水深が150cm以上、または特定の重要な設備（発電機・ポンプ・換気機）を守るために活用
止水板（設置式）	<ul style="list-style-type: none"> 止水板は高い（浸水防止）シート（防水シート）よりも高くなる ※浸水深150cmまで対応（150cm以上でも一部メーカーでは対応可能） ※設置作業が容易（1人作業で2時間程度） ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる ※浸水深が50cm以上、または特定の重要な設備を守る場合に活用 （設置が困難であるため、窓の数が少ない場合、緊急時に人員を確保できる場合に限られる。）
止水板（固定式）	<ul style="list-style-type: none"> 止水板は、止水板（設置式）と同様 ※設置作業が容易（1人作業で2時間程度） ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる
止水板（はりつけ式）	<ul style="list-style-type: none"> 止水板は、止水板（設置式）と同様 ※設置作業が容易（1人作業で2時間程度） ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる
止水シート	<ul style="list-style-type: none"> 止水板よりも浸水防止性能が高い（浸水防止）シート（防水シート） ※浸水深150cmまで対応（150cm以上でも一部メーカーでは対応可能） ※設置作業が容易（1人作業で2時間程度） ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる
その他の浸水対策	<ul style="list-style-type: none"> 浸水防止により自動または手動で機器が停止する（一部では機器の停止が必要） ※設置作業が容易（1人作業で2時間程度） ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる ※設置に人手が必要、重量が20kg（2m×50cm）ほどあり浸水深によっては作業となる

【調査イメージ】

【対策イメージ】

【対策イメージ】

水害に関する防災教育の推進

- DVDの視聴やハザードマップを使用し「命を守る行動」について出前講座を実施。
- 警戒レベルや事前準備について説明したうえで、東京マイタイムラインを使用し避難計画を作成。

